

経営比較分析表（令和6年度決算）

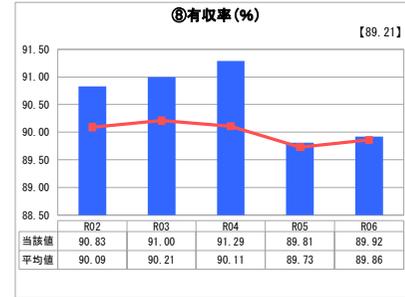
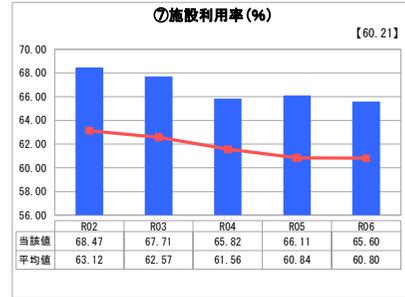
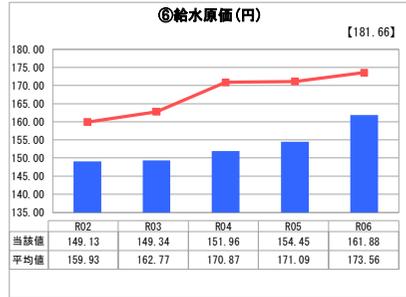
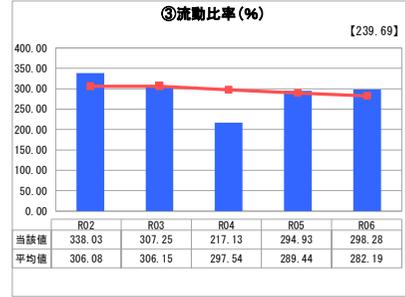
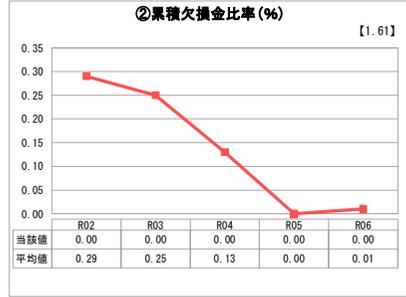
埼玉県 春日部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	その他
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金 (円)	
-	73.91	99.97	2,684	

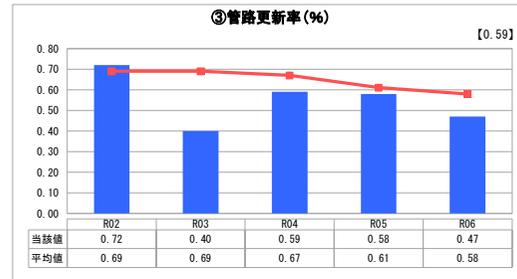
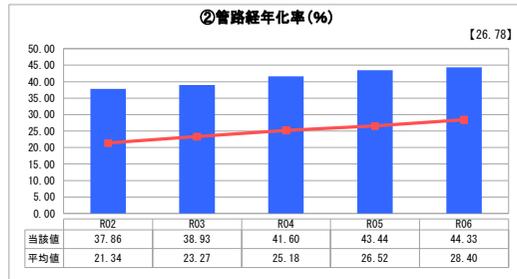
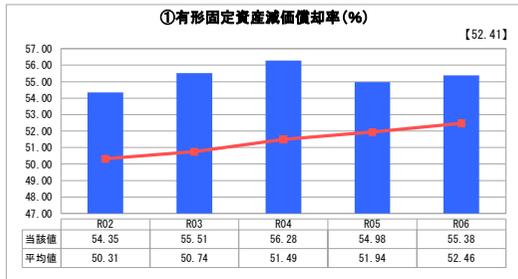
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
229,656	66.00	3,479.64
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
229,290	66.00	3,474.09

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
100%を上回っているが、下降してきており、今後増加する老朽化施設の更新財源の確保が課題である。
- ③流動比率
100%を上回っており、短期的な債務に対する支払能力に問題はない。
- ④企業債残高対給水収益比率
類似団体平均値を大きく下回っているが、将来世代の負担が過大とならないよう、企業債残高を適正に管理していく必要がある。
- ⑤料金回収率
100%を下回っており、今後も施設の維持管理費や更新費用の増加が見込まれることから、財源確保に努める必要がある。
- ⑥給水原価
類似団体平均値を下回っているが、委託料等が増加したことなどから前年より上昇しており、今後も上昇傾向が見込まれる。
- ⑦施設利用率
下降傾向となっている。今後は人口減少や節水型社会への移行等による給水量の減少が見込まれることから、将来の水需要を考慮しながら効率的な施設運用に努める必要がある。
- ⑧有収率
類似団体平均値を上回っており、前年度より増加している。引き続き漏水調査や老朽管の更新などの漏水対策を行い、有収率の向上に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
50%を超えており、法定耐用年数に近い資産が多いことを示している。
- ②管路経年率
類似団体平均値を上回っており、法定耐用年数を超えた老朽管が多いことを示している。更に、今後は高度経済成長期に布設した多くの配水管が耐用年数を迎えることから、管路更新ペースの向上を図る必要がある。また、表中の令和5年度の数値について、管路延長の見直しに伴い、43.44から43.75へ変更となった。
- ③管路更新率
前年度より減少しており、類似団体平均値を下回った。これは、繰越工事が多く発生したことにより、一時的に年度内完成工事が減少したことによるものである。今後、管路更新率の向上に向け、計画的な管路更新を行っていく必要がある。また、表中の令和5年度の数値について、管路延長の見直しに伴い、0.58から0.49へ変更となった。

全体総括

今後も水需要の低下や施設の老朽化等、経営状況は厳しさを増していく見込みとなっている。また、計画的な施設更新を行っていくため、概算発注方式や設計施工一括発注方式を活用するなどの工夫を行っているものの、人件費や物価上昇などによる工事請負費等の増加が経営を圧迫している。今後も、春日部市新水道事業ビジョン（経営戦略）に基づき、計画的な施設の更新と効率的で持続可能な事業経営の確保を図っていく必要がある。

経営比較分析表（令和6年度決算）

埼玉県春日部市 春日部市立医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	27	対象	I未訓ガ	救臨が感輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
229,656	33,600	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

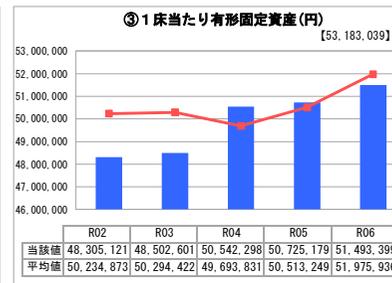
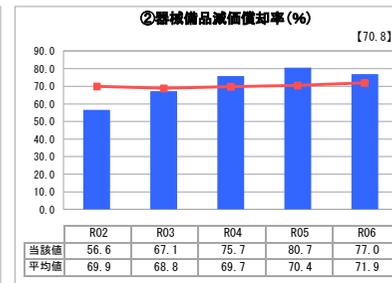
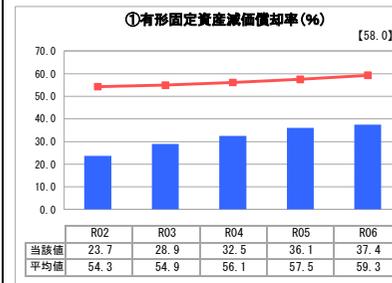
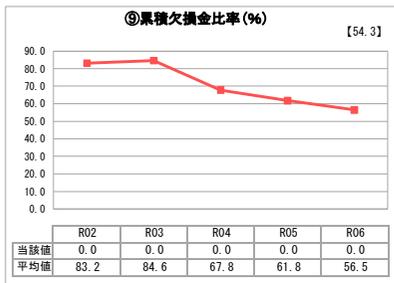
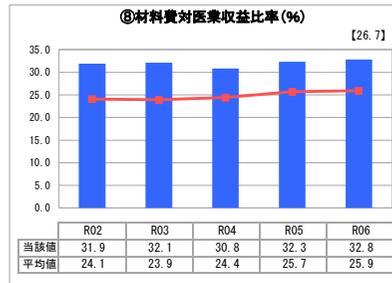
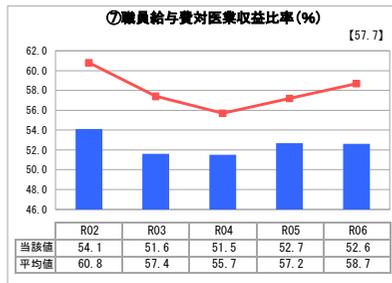
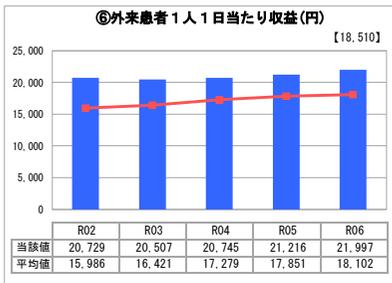
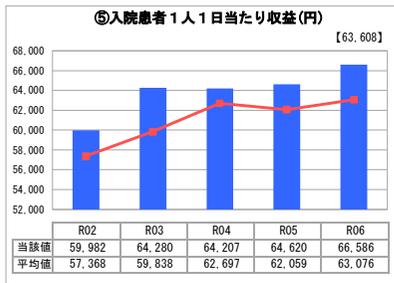
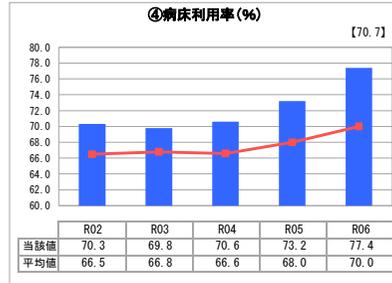
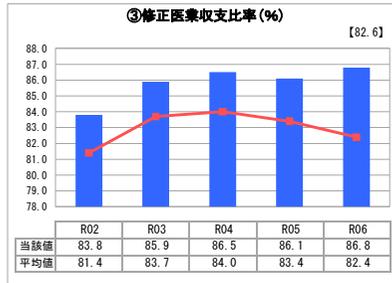
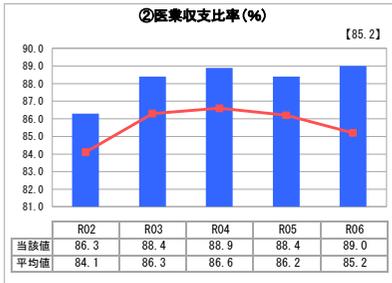
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
361	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	2	363
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
329	-	329

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- [] 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

組織分画・連携強化 (従来の取組・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

地域医療連携体制を支える基幹病院として地域で不足する専門的な医療を提供している。また、地域がん診療連携拠点病院として先進的な設備や医療機器を導入し、患者受け入れ態勢の強化を図るとともに、小児・周産期医療、救急医療、災害時医療などにおける地域拠点病院としての役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、入院・外来収益の増などにより医業収益は令和5年度を上回ったものの、費用において職員給与費や材料費などの増により経常費用が増加したため、令和5年度と比較して0.9ポイント悪化した。② 医業収支比率③ 修正医業収支比率は、給与費や材料費などの医業費用は増加したものの、入院・外来収益の増などにより医業収益がそれを上回る増加率となったため微増となった。④ 病床利用率は3年連続での増となったが、新型コロナウイルス流行前には異なっていた。⑤ 入院患者1人1日当たり収益は、手術件数の増や平均在院日数の短縮などにより増加した。⑥ 外来患者1人1日当たり収益は、抗がん剤治療件数の増や紹介受診重点医療機関として公表されたことにより比較的軽微な患者の受診が減少したことなどにより増加した。⑦ 職員給与費対医業収益比率は、人事院勧告への対応などにより職員給与費が増えたものの、入院・外来収益の増などにより医業収益もほぼ同じ増加率となったため横ばいとなった。⑧ 材料費対医業収益比率は、入院・外来収益の増などにより医業収益は増加したものの、抗がん剤治療件数や手術件数の増などにより材料費がそれを上回る増加率となったため増加した。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、病院建物等の減価償却の進捗により増加が続いているが、全国平均、類似病院平均を約20ポイント下回っている。新病院建設から8年が経過していることから、今後の大規模修繕に備える必要がある。② 器械備品減価償却率は、内視鏡下手術支援ロボットなど高額医療器械の更新を行ったことにより減少したが全国平均、類似病院平均を上回っている。③ 1床当たり有形固定資産は高額医療器械の更新を行ったことにより増加したが全国平均、類似病院平均は下回っている。

全体総括

令和6年度の経営状況は、入院・外来収益の増などにより経常収益は令和5年度を上回ったものの、人事院勧告への対応などによる職員給与費の増や、抗がん剤治療件数及び手術件数の増加による材料費の増などによる経常費用の増加により経常収支は悪化し、2年連続の経常赤字となった。今後は令和5年度に策定した「経営強化プラン」に定めた数値目標達成に向けた取組を着実に推進することにより、令和9年度の経常黒字化を目指していく。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和6年度決算）

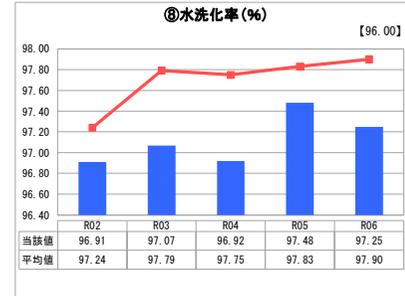
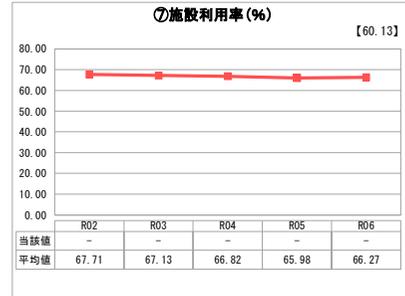
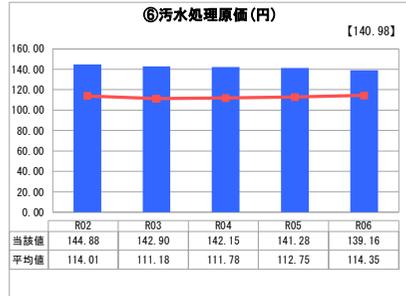
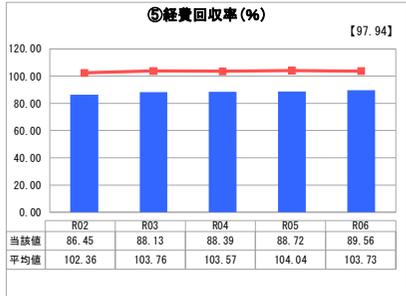
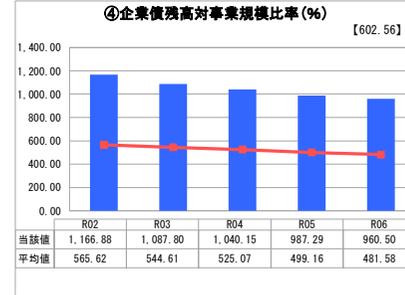
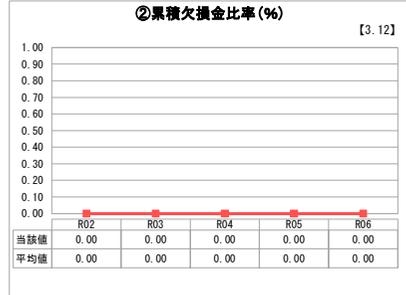
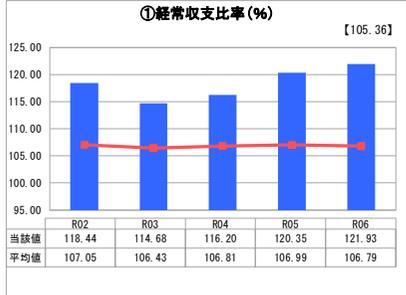
埼玉県 春日部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 ³ 当たり家庭料金(円)
-	51.52	90.21	91.94	2,376

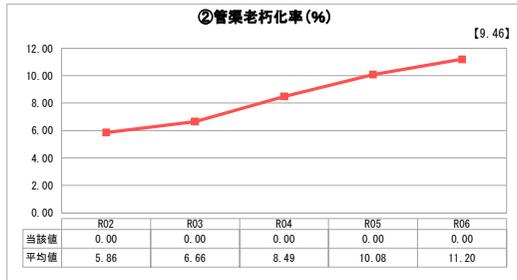
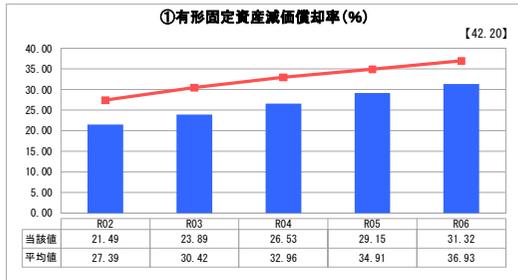
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
229,656	66.00	3,479.64
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
206,914	22.66	9,131.24

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①② 経常収支比率、累積欠損比率
 経常収支比率は100%を上回っているが、使用料収入の不足分を一般会計補助金で補っている状況にあり、補助金繰入額の増減に伴い、経常収支比率が増減している。引き続き、水洗化率の向上による使用料収入の増加及び不明水解消による維持管理費用を削減する必要がある。

③ 今後は企業債残高の減少に伴い流動比率も増加していくものと考えられるが、当面の間は100%を下回ることが想定されるため、短期的な債務に対する支払いには留意する必要がある。

④ 企業債残高対事業規模比率が平均を上回っているのは、初期投資の企業債や資本費平準化債の借入が債務残高に影響しているためである。今後においても企業債残高に注視し適正に管理をしていく必要がある。

⑤⑥ 経費回収率、汚水処理原価
 経費回収率はやや改善傾向にあるものの汚水処理原価においては、横ばい傾向の状況にあり、今後においても引き続き、不明水の解消等有収水量の増加を図るとともに使用料の適正化について検討していく必要がある。

⑧ 水洗化率は、類似団体平均を若干下回っている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
 平均値と比較して低い値であり、法定耐用年数に近い資産は比較的少ないといえる。

② 管渠老朽化率
 当市の値は現段階では「0」であり、法定耐用年数を超過した管渠はない。

③ 管渠改善率
 管渠の更新が進んではいるが、経年劣化による改善の必要な管渠が増加傾向といえる。

老朽化の程度は低いが、将来の更新時期に備えてストックマネジメント計画に基づいた計画的・効率的な維持管理に取組んで行く必要がある。

全体総括

経営状況が厳しさを増す中、策定した経営戦略に基づき、経営基盤の強化を図り、持続可能な経営が求められる。

これにあたり、水洗化率の向上による使用料収入の増加および不明水解消による汚水処理費用の削減に取り組む必要がある。

また、下水道管渠や中継ポンプ場施設の老朽化及び震災などの災害に対応するため、計画的・合理的な維持管理・更新を実施していく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。